

---

# 本当にあったお話

都香紗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

本当にあつたお話

### 【Nコード】

N61330

### 【作者名】

都香紗

### 【あらすじ】

本当にあつた居酒屋での恐怖体験。

これは  
本当にあつた話です。

とある居酒屋で深夜営業が終わり片付けをしていました。  
すると

お客さんがいないのにいきなりブルブルブルブルっと誰かがテーブルにあるボタンを押したらしく鳴ります。  
しかしお客さんはいません。

従業員も私一人  
まだいるのか確認しても誰もいません。

故障かと思い立ち去ろうとしたらまた鳴り出しました。

フツと後ろを向くと…

小さい子供が微笑んでいました。  
私は怖くなってその場から立ち去りました。  
しかし何度も何度も呼ばれるのです。  
しまいには他のテーブルからも…

恐怖にみちあふれ  
仕事もほったらかして逃げようと思いました。  
しかしどこの扉も開かず  
エレベーターも動かず逃げられません。

私はパニックになり叫びうずくまり  
一人震えてました。

(誰か…、誰か助けて…。)

涙を流しガタガタ震えてジツ耐えてました。  
このまま気絶出来たらどれだけ良いことか。

店のエレベーター近くでずっと誰か来るのを待ってましたが  
こんな時間に誰か来るはずもない。

少ししてから

背筋がゾツとしました。

恐る恐る後ろを振り向くと…

「お姉ちゃん、なんで逃げるの？」

それ以降の記憶はありません。  
気づいたら病院でした。

発見してくれた人がいうには  
エレベーター前で倒れてた。  
そしてうなされてた。  
とそれだけ聞きました。

こんなことがあってから私はその居酒屋をやめ  
一度も顔を出してません。

またあの子供にあつたらと思うと怖くて近づけません。

私がやめて今、また新たな被害者が出てるかもしれない。

そう

いままさに...

ねっ。

もしかしたら

あなたが働いている

お店かもしれないね。

気をつけてください。

今度はあなたの番かもしれないから。

(後書き)

本当にあったなんて書きましたが

半分本当の半分嘘です

どこまでが嘘でどこまでが本当なんでしょうね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6133o/>

---

本当にあったお話

2010年10月31日08時36分発行